



社史紹介

門倉百合子

渋沢栄一記念財団

【No】 1J

【会社名】 株式会社帝国ホテル

【社史タイトル】 帝国ホテル百年史

【発行年】 1990

【社史紹介】 幕末の開国以後、外国の賓客接待のためのホテルの必要性を痛感した外務卿井上馨は、西欧風の近代ホテルの建築を構想。当時の財界実力者渋沢栄一(しづさわ・えいいち、1840-1931)、大倉喜八郎(おおくら・きはちろう、1837-1928)が発起人となって 1887 年(明 20)有限責任東京ホテル会社設立。しかし日比谷に同名のホテルがあるので 1890 年(明 23)有限責任帝国ホテル会社と改称し、同年帝国ホテル開業。以来 1990 年(平 2)までの百年史。1923 年(大 12)にはライト設計の全館が完成、同年の関東大震災の被害も軽微で、戦前戦後を通じて多くの来日外国人が宿泊。戦後は進駐軍に接収される。1970 年(昭 45)に現本館が完成。社史は沿革編と資料編からなり、人名・事項索引付。

【No】 2J

【会社名】 東京電灯株式会社

【社史タイトル】 東京電灯株式会社開業五十年史

【発行年】 1936

【社史紹介】 明治初期工部大学校の英国人教師及び学生は海外雑誌などから電灯の実用性を知り、実業家に電気事業創設を提案。1882 年(明 15)矢嶋作郎(やじま・さくろう、1839-1911)、大倉喜八郎(おおくら・きはちろう、1837-1928)らは東京電灯会社の設立を出願。翌年許可され 1886 年(明 19)一般営業を開始、東京に火力発電所を建設して 1888 年(明 21)電力供給を始める。渋沢栄一(しづさわ・えいいち、1840-1931)は設立に際し尽力し、1888-1891 年(明 21-24)に役員を務める。50 年史は設立からの沿革、現況、資料編から成り、写真・図表を数多く掲載している。[1942 年(昭 17)配電統制令に基づき甲府電力、富士電力、日立電力とともに新設合併し、関東配電(株)を設立]

【No】 3J

【会社名】 大成建設株式会社

【社史タイトル】 大成建設社史

【発行年】 1963

【社史紹介】 越後出身の大倉喜八郎(おおくら・きはちろう、1837-1928)は維新期の江戸で海外貿易に着目、1873 年(明 6)大倉組商會を創立。建設業も行い 1887 年(明 20)日本土木会社設立(渋沢栄一は委員長)、

1893年(明26)には大倉土木組を設立し時代の要請に応え鉄道・港湾工事等行なう。(株)大倉土木組、日本土木(株)と社名変遷の後1924年(大13)大倉土木(株)となるが、第二次大戦後財閥解体で1946年(昭21)大成建設(株)と社名変更。社史前編は創業からのあゆみを通史として記述、後編は海外進出、建設技術の変遷、新技術の開発の歴史をまとめた構成。

【No】 4J**【会社名】** 清水建設株式会社**【社史タイトル】** 清水建設百五十年**【発行年】** 1953

【社史紹介】 越中出身の初代清水喜助(しみず・きすけ、1783-1859)は1804年(文化1)神田鍛冶町で大工を開業、清水屋と号す。1915年(大4)合資会社清水組に改組、1937年(昭和12)(株)清水組、1948年(昭23)清水建設(株)となる。150年史は創業期から1953年(昭28)までの歩みを図面・写真をふんだんに使って描く。渋沢栄一(しぶさわ・えいいち、1840-1931)は相談役としてしばしば登場し、居宅や第一銀行等関係した会社で清水組施工の建物についても数多く触れられている。

【No】 5J**【会社名】** 株式会社資生堂**【社史タイトル】** 資生堂社史**【発行年】** 1957

【社史紹介】 千葉出身で薬学を修めた福原有信(ふくはら・ありのぶ、1848-1924)は、海軍薬剤監を辞して1872年(明5)三田町で薬局開業、火事のため銀座出雲町に移る。一方友人らと三精社を興し、西洋薬舗会社資生堂を設立、個人の薬舗にも資生堂を号した。出雲町の資生堂薬局二階に回陽医院を設けるも医薬分業を實踐し、製薬事業に尽力。1887年(明20)日本初の煉歯磨、1897年(明30)化粧品の製造販売にも乗り出す。欧米に学んだ三男福原信三(ふくはら・しんぞう、1883-1948)が化粧品を充実させ、1921年(大10)合資会社資生堂となる。1927年(昭2)株式会社に改組し、戦禍を乗り越え業容拡大する。85年史は銀座と共に歩んだ資生堂の変遷を、製品・広告・風俗など多くの写真図版や寄稿文を取り入れ多面的に描いている。

【No】 6J**【会社名】** 長谷川香料株式会社**【社史タイトル】** 長谷川香料八十年史**【発行年】** 1985

【社史紹介】 薬種貿易の松沢商店で香料を扱っていた長谷川藤太郎(はせがわ・とうたろう、1877-1947)は、1903年(明36)独立して日本橋に香料店の長谷川藤太郎商店を創業。石鹸や化粧品、バニラ入り食品等が広まるにつれ香料の需要も伸びる。1948年(昭23)株式会社に改組。経営近代化を図り、1961年(昭36)香料製造販売の長谷川香料(株)を設立し業務一切を引継ぐ。川崎に続き深谷にも工場建設し成長する。80年史は1・2章に「古代の香料」「文明開化と香料」を置き、3章から13章に創業からの歩みを年代順に記述。各頁欄外に該当年の年表を記載している。

【No】 7J**【会社名】** 森永製菓株式会社**【社史タイトル】** 森永五十五年史**【発行年】** 1954

【社史紹介】 佐賀出身の森永太一郎(もりなが・たいちろう、1865-1937)は米国で西洋菓子製法を学び、1899年(明32)東京に森永西洋菓子製造所を設立。1905年(明38)には貿易商松崎半三郎(まつざき・はんざぶろう、1874-1961)が入店し支配人となる。1910年(明43)会社組織の森永商店設立、1912年(大1)森永製

菓(株)と改称。創業時から製造しバラ売りしていたキャラメルは、改良を重ね一粒ずつ包装し携帯に至便かつ外箱を紙にすることで安価になり、菓子店のドル箱となった。1942年(昭17)戦時の企業統合により森永乳業、森永食品工業、東海製菓、森永関西牛乳を合併、翌年森永食糧工業(株)と改称するが、戦後1949年(昭24)商事部門、乳業部門を分離し、森永製菓(株)に社名復帰した。55年史では第1部が森永太郎と松崎半三郎の回顧録、第2部が創業からの写真録で商品や広告等を紹介、第3部は資料。

【No】 8J

【会社名】 鐘紡株式会社

【社史タイトル】 鐘紡百年史

【発行年】 1988

【社史紹介】 東京の繰綿問屋 5 店は 1886 年(明 19)東京綿商社を創立、隅田川の鐘淵に紡績所を建設、1893 年(明 26)鐘淵紡績(株)となる(渋沢栄一は顧問)。苦境期に三井の支援を受け、多くの紡績会社を吸収し、重化学工業へも進出。繊維以外の事業を行っていた鐘淵実業と 1944 年(昭 19)合併し、鐘淵工業(株)発足。第二次大戦後は繊維事業中心に転換し、1946 年(昭 21)鐘淵紡績(株)と社名復帰。化粧品・食品等の事業にも次々進出、1971 年(昭 46)鐘紡(株)となる。百年史は武藤山治(むとう・さんじ、1867-1934)ら歴代経営者の時代を軸に編集され、千頁を越す大作。[2001 年カネボウ(株)と社名変更。2004 年化粧品事業を営業譲渡し(株)カネボウ化粧品発足、2005 年繊維事業を KB セーレン(株)に営業譲渡、2006 年スタッフ部門と事業会社が独立し 2007 年にクラシエホールディングス(株)が発足、カネボウ(株)は解散]

【No】 9J

【会社名】 同和火災海上保険株式会社

【社史タイトル】 同和火災 50 年史

【発行年】 1995

【社史紹介】 明治期に生糸貿易が興隆した横浜では、生糸の保険は外国会社が独占していた。原善三郎(はら・ぜんざぶろう、1827-1899)ら生糸売込商は独自の損保会社設立のため、渋沢栄一(しぶさわ・えいち、1840-1931)の協力で富田鉄之助(とみた・てつすけ、1835-1916)を社長に 1897 年(明 30)横浜火災保険(株)を設立。経営多角化で 1906 年(明 39)から海上保険も兼営し、堅実経営で業績をのびす。1944 年(昭 19)戦時下の企業統合で共同火災海上保険、神戸海上火災保険、朝日海上火災保険と合併し、同和火災海上保険(株)が誕生。50 年史は前史で前身 4 社の沿革を概観し、本史で同和火災発足からの 50 年を詳述。別冊の「写真集」には災害絵図を始めとする同和火災コレクションの写真資料等を掲載、「資料集」には前身 4 社と同和火災の経営資料および年表を収録している。[2001 年(平 13)ニッセイ損害保険(株)と合併しニッセイ同和損害保険(株)(現・あいおいニッセイ同和損害保険(株))となる]

【No】 10J

【会社名】 大和運輸株式会社

【社史タイトル】 大和運輸五十年史

【発行年】 1971

【社史紹介】 東京数寄屋橋生まれの小倉康臣(おぐら・やすおみ、1889-1979)は、貨物輸送が荷車と牛馬車全盛の時代にトラック輸送専門の企業化に強く心をひかれ、1919 年(大 8)大和運輸(株)を創業。三越呉服店等との配達契約を結び、1929 年(昭 4)には東京・横浜間の定期運輸を開始する。1940 年(昭 15)鉄道省の勸奨により全資本金を日本通運(株)が持つが、1948 年(昭 23)日通資本を離脱。1957 年(昭 32)米国アライドヴァン社からネコマークの使用承認を受け「親子猫」のマークを制定。サービス向上に努め海上コンテナや航空貨物の取扱いも開始する。50 年史は社史編、創業者の自伝編、トラックの移り変わりや制

服等の写真も含む資料編からなる。索引付。[1982年(昭57)ヤマト運輸(株)と商号変更、2005年(平17)純粋持株会社ヤマトホールディングス(株)へ移行]

【No】 11J

【会社名】 (財)日本交通公社

【社史タイトル】 五十年史：1912-1962

【発行年】 1962

【社史紹介】 外賓接待のため渋沢栄一らが1893年(明26)組織した喜賓会は、日露戦争後に業績不振となっていた。鉄道、汽船、ホテル業者らは新たな外人旅行客誘致機関設置を企図し、栄一らの援助を得て1912年(明45)ジャパン・ツーリスト・ビューロー創立。国内外に事務所を設置し日本人旅行も取扱い業容を拡大する。1927年(昭2)社団法人となり大衆旅行普及機関として発展。1942年(昭17)(財)東亜旅行社と改組。1945年(昭20)9月(財)日本交通公社と改称し、内外の旅行斡旋業務を広げる。50年史は創業からの歩みを時系列で詳述し、戦時下の宣伝文化事業や戦後の出版事業にも触れている。巻末に資料付。首脳陣の評伝を『この人々』として別途出版。[1963年(昭38)旅行営業部門を分離し(株)日本交通公社(現(株)ジェイティービー)設立]



New articles in this journal are licensed under a Creative Commons Attribution 3.0 United States License.



This journal is published by the University Library System, University of Pittsburgh as part of its D-Scribe Digital Publishing Program and is cosponsored by the University of Pittsburgh Press